

プリキュア名における両唇音の音象徴 II: 実験的検証¹

川原繁人 (慶應義塾大学)
kawahara@ic1.keio.ac.jp

1. はじめに

音そのものが何かしら特定のイメージを喚起する現象を「音象徴」と呼ぶ。音象徴に関する研究は、心理学・認知科学・言語学・音声学などのさまざまな分野で近年ますます活発になってきている (e.g. Kawahara 2020)。また音象徴の分析は、「ポケモン」「メイド」「宝塚」「ドラクエの呪文」など、身近なジャンルの名前も分析対象にできるため、教育的にも有用であることも指摘されている (川原 2017)。これらの研究背景を踏まえ、川原 (2019) は、アニメシリーズ『プリキュア』に登場する主人公達の名前の多くが両唇音で始まることを指摘した。例えば、『フレッシュプリキュア!』に登場するのは「ピーチ」「パイン」「ベリー」「パッション」の四人で、全ての名前が両唇破裂音で始まる。同じように、『魔法使いプリキュア!』に登場するプリキュアは、「マジカル」「ミラクル」「フェリーチェ」で、三人とも名前の語頭が両唇音である。川原 (2019) は、「プリキュアの名前」を、他のジャンルの名前 (「ウルトラマンの名前」や「一般的な人間の名前」など) と比較し、前者において、名前が両唇音で始まる確率が高いことを、ブートストラップ方を用いて統計的に示した。また、この音象徴が成り立つ背景として、両唇音は喃語に多く現れるため、「両唇音」=「赤ちゃん」=「かわいい」=「プリキュア」という連想が働いている可能性があることも指摘している。本稿では、この「プリキュア」=「両唇音」という音象徴的なつながりを、さらに深く検証した実験を報告する。

2. 実験

2.1. 実験の目的

川原 (2019) で報告された研究は、実在するプリキュアの名前の分析のみに留まっており、以下の疑問点が残る：

- 疑問 1: 「プリキュア」=「両唇音」という音象徴的なつながりは生産性を持つのか。実在名にだけ成り立つものなのか。それとも新しい名前にも一般化されるものなのか。
- 疑問 2: 「プリキュア」=「両唇音」というつながりは、プリキュアのデザイナーだけに関わる問題なのか。それとも、一般の日本人も同じような印象を共有しているのか。

¹この厳しい社会状況の中、新しい実験を行うことを決意させてくれたのは、プリキュアを題材にした授業を「面白い」と言ってくれた多くの学生たちの声のおかげである。川原 (2019) と同じく、本稿が有用な学習教材のひとつとなれば幸いである。本研究は科学研究費#17K13448 の助成を受けている。川原 (2019) の研究発表から一年経過した今でもプリキュアへの情熱を失わない娘、および、最近プリキュアに興味を新しく示してきた小さいほうの娘にも感謝する。本稿の文責はメガビョーゲンに帰する。

- 疑問 3：川原（2019）で論じられている音象徴は、すべての種類の両唇音に関わるものなのか。

疑問 1 は音象徴一般（については言語知識一般）に関わる問題である。ある現象が実在語で観察されたとき、その現象が生産性をもつのか（＝新しい語彙が与えられたときにも成り立つ現象なのか）という問題は、常に吟味されるべき視点であろう。疑問 2 は、川原（2019）で観察された音象徴的つながりが、プリキュアのデザイナーという、ある意味、狭い世界でのみ成り立つものなのか、それとも日本人一般が共有する印象なのかという問題に関わる。もし、デザイナーの間でプリキュアに「可愛い名前を付けよう」という意思が働いて、その結果として「両唇音＝プリキュア」という確率が高くなっているのであれば、視聴者側である一般の日本人にも「両唇音＝可愛い」という連想が共有されていることが前提となる。疑問 3 は、川原（2019）の分析の問題点に関わる。すなわち、川原（2019）は「両唇音」というカテゴリー全体としての分析しか報告しておらず、個々の両唇音に関しての分析を行っていない。（ただし、[w]で始まるプリキュアが存在しないことは指摘されている。）実在する両唇音で始まるプリキュアの名前の内訳を表 1 に示す。

表 1: 両唇音で始まるプリキュアの名前。「フォンテーヌ」は川原(2019)発表後の放送された『ヒーリングっど♥プリキュア!』に登場。[m]で始まるプリキュア名が突出して多い。

[p]	[b]	[m]	[ɸ]	[w]
ピーチ	ブラック	ミント	フォーチュン	該当なし
パイン	ブルーム	ミルクローズ	フローラ	
パッション	ベリー	マリン	フェリーチェ	
ピース	ブロッサム	ムーンライト	フォンテーヌ	
プリンセス	ビート	メロディ		
パルフェ	ビューティー	ミューズ		
		マーチ		
		マーメイド		
		マジカル		
		ミラクル		
		マカロン		
		マシェリ		
		ミルクィー		

表 1 を見ると、川原（2019）の結果は、[m]に影響を受けている可能性がある。他の両唇音も音象徴的に考えて、プリキュアの名前にふさわしいのであろうか。また、実在のプリキ

キュア名の語頭に現れない[w]は、プリキュアの名前として妥当だと判断されるのであろうか。川原（2019）の研究から生じたこれらの新たな疑問に光をあてるため、本稿では無意味語を用いた実験を報告する。

2.2. 実験手法

刺激には「両唇音（[p], [b], [m], [ϕ], [w]）で始まる名前」と「両唇音で始まらない名前」のペアを、それぞれの音につき 6 つ用意した。今回の刺激では、ペア内で異なっている音は、語頭の子音だけであった。表 2 に刺激のリストを示す。どの刺激も実在の日本人の名前としては考えにくいものを選択した。

表 2: 今回の実験に用いた刺激ペアの一覧。

[p]	[b]	[m]	[ϕ]	[w]
パラル vs. タラル	ベルン vs. デルン	メラル vs. ネラル	フラル vs. スラル	ワラル vs. ヤラル
ポルン vs. コルン	ボルン vs. ゴルン	マラル vs. ナラル	フルン vs. スルン	ワマン vs. ヤマン
ピルル vs. キルル	ベラル vs. ゲラル	ミルル vs. ニルル	フォルン vs. ソルン	ワンナ vs. ヤンナ
ボルル vs. トルル	ボフル vs. ゴフル	メルル vs. ネルル	ファルル vs. サルル	ワミル vs. ヤミル
ピアン vs. キアン	ベルラ vs. デルラ	メルサ vs. ネルサ	ファルミ vs. サルミ	ワオル vs. ヤオル
ピナラ vs. キナラ	ベルマ vs. ゲルマ	ミーヤ vs. ニーヤ	フィロル vs. シオル	ワッフ vs. ヤッフ

これら 30 のペアを 1 試行に 1 つずつ提示し、どちらの名前がプリキュアの名前としてふさわしいかを、SurveyMonkey を用いたオンライン実験で判断してもらった。実験参加者は主に Twitter 上で募集した。² 刺激の提示はカタカナを用い、ペア内の順番および刺激提示順序は参加者ごとにランダム化した。日本語非母語話者である 4 名と、音象徴を過去に研究したことあると報告した 8 名のデータを除き、残った 181 名のデータを分析対象とした。

3. 結果

それぞれの参加者について「両唇音で始まる名前がプリキュアの名前にふさわしい」と選んだ確率を計算した。結果として得られた確率分布の箱ひげ図を図 1 に示す。[w]を除くすべての音において、「両唇音＝プリキュア」とされた確率が全体的に 0.5 を上回っている。「両唇音＝プリキュア」とされた全体平均確率は、[p]=0.74, [b]=0.85, [m]=0.77, [ϕ]=0.86, [w]=0.51 であった。実験参加者とアイテムのランダム効果を切片と傾きに含めて、ロジスティック線形混合効果モデル (logistic linear mixed effects model) をそれぞれの両唇音の回答分布にあてはめた結果、[w]以外の全ての両唇音が「プリキュア回答率」を有意に上

² 多くの参加者が、音象徴をボイストレーニングに応用している長塚全さんの呼びかけで集まった。この場を借りて感謝申し上げたい。

昇させることが示された（表3）.³

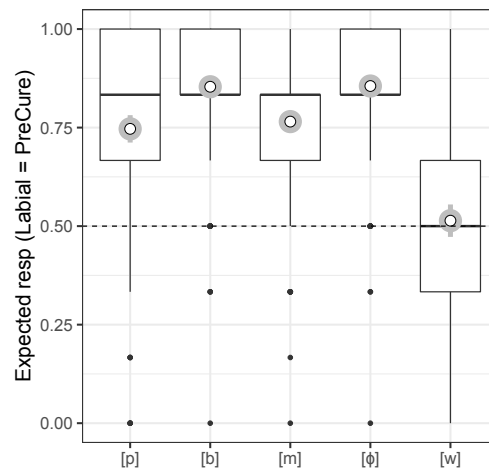


図1: 「両唇音＝プリキュア」と選ばれた確率分布の箱ひげ図. 白丸＝全体平均. 灰色のバー＝95%信頼区間.

表 3: ロジスティック線形混合効果モデルの結果.

	β	標準誤差	z-値	p-値
[p]	2.40	0.58	4.16	<.001
[b]	5.14	0.66	7.79	<.001
[m]	3.21	0.80	3.99	<.001
[ɸ]	4.98	0.44	11.2	<.001
[w]	0.19	0.49	0.39	n.s.

この結果から、[w]を除けば、「両唇音＝プリキュア」というつながりは、プリキュアデザイナーだけでなく、一般の人も感じる音象徴であると結論づけられる。また、この音象徴は、無意味語でも成り立つ生産性を持ち、[w]を除く両唇音それぞれにおいて観察されることが判明した。⁴

事後分析として、181名という多くのデータが集まったので、性別とプリキュアの親密度

³ アイテムをランダム効果に含めるため、1 試行を「両唇音の刺激」と「両唇音でない刺激」に分けて分析した。[p]の分析時、参加者のランダム効果を傾きを含めると、モデルが収束しなかったため、切片のみを含めた。また、実験後「ポルンは実際にプリキュアに登場する妖精の名前である」という指摘があった。「ポルン」を除いて再分析した結果、[p]の効果は有意のままであった（平均確率=0.72, $\beta = 2.11$, st.err=0.23, $z = 9.12$, $p < .001$ ）。

⁴ そもそも日本語においては、[w]が音韻的には両唇音でない可能性すらある。IPAによれば、[w]は両唇軟口蓋音であり、原理的には、両唇音としても軟口蓋音としても定義可能である。日本語において[w]が[+labial]という素性を持っているという音韻的な証拠はあまり知られていない（この点に関する詳しい議論は、Kumagai 2017 を参照）。

が本結果に影響したかを分析した。まず、川原（2019）で議論されているように、本結果の背後に「両唇音」＝「赤ちゃん」＝「かわいい」＝「プリキュア」という連想が働いているとするならば、一般的に、より赤ちゃんに興味があると思われる女性のほうが、より強い音象徴効果を示した可能性がある。しかし、図 2 に示すように、今回の実験では、明確な男女差は観察されなかった。

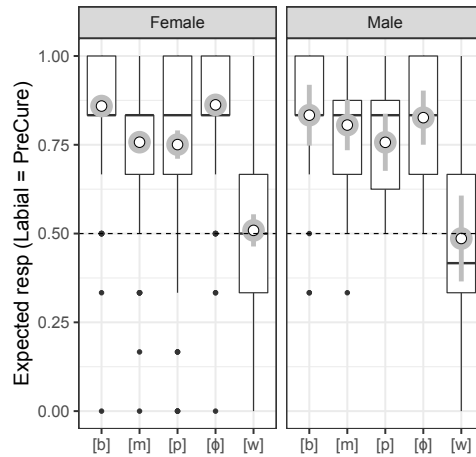


図 2：本実験の結果の男女差比較。男性 24 名、女性 149 名。8 名は性別未回答。

次に、プリキュアへの親密度の影響を分析した。実験の最後に「プリキュアシリーズのことをどれくらい知っていますか？」という質問に対して、「ほとんど知らない」から「とってもよく知っている」という 7 段階の順序尺度を用いて回答してもらった。図 3 に、この質問に対する回答と「両唇音＝プリキュア」と答えた確率の相関を示す。

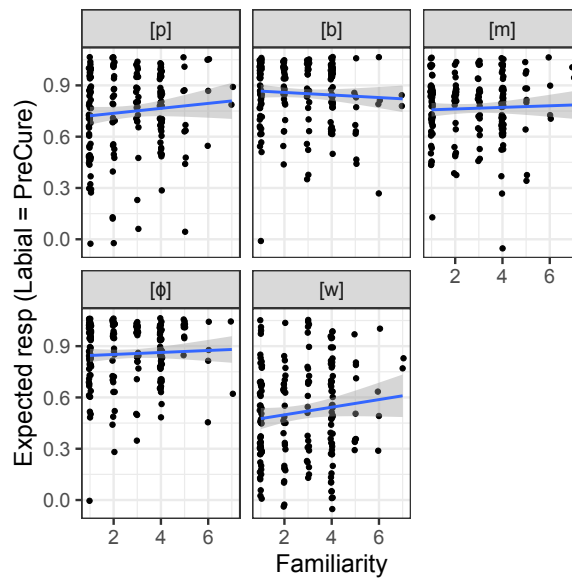


図 3：本実験における「プリキュアの親密度」と音象徴効果の相関。

どの両唇音においても強い正の相関は観察されなかった。スピーアマン相関係数は[p] = 0.08, [b] = -0.08, [m] = 0.04, [ɸ] = 0.03, [w] = 0.10 で、全て有意ではなかった。この結果から、本実験の結果は、実在のプリキュアの名前からの類推に基づいてはいないことが示唆される。

4. 結論

本実験によって、「両唇音=プリキュア」という音象徴的つながりは、プリキュアのデザイナーに限定されたものではなく、一般の人も感じるものであることが示唆された。また、この音象徴的つながりは、実在語だけでなく無意味語 (=新しい名前) でも成り立つ生産性を持つもので、[w]以外の全ての両唇音について成り立つことが判明した。この音象徴効果は、女性やプリキュアファンに限定されたものではなく、本実験の結果から、日本人一般に共有された音象徴がプリキュアの名付けに利用されている可能性が示唆される。

最後に、本研究および川原 (2019) の教育への応用について述べる。川原 (2019) 執筆以降、筆者は音声学の授業や公開セミナーを、このプリキュア名における音象徴の研究紹介から始めることにしている。初代プリキュアは2004年に始まり、現在の大学生の多くが幼少期にプリキュアに親しんできており、興味を引きやすいからである。⁵ また、この研究の紹介を通して、「両唇音」という調音点のカテゴリーを紹介することができ、「なぜ調音点という概念が音声学の分析に有用であるか」を伝えることにも適している。本稿で報告した実験も、非常に簡素なもので、このような実験は、興味さえあれば学部生でも実行可能なものであると思われる。本稿が実際の卒業論文などの参考になれば幸いである。

参考文献

- Kawahara, S. (2007) "Half rhymes in Japanese rap lyrics and knowledge of similarity", *Journal of East Asian Linguistics* 16.2: 113-144
- Kawahara, S. (2020) "Sound symbolism and theoretical phonology", *Language and Linguistic Compass*.
- Kumagai, Gakuji (2017). Testing OCP-labial effect on Japanese rendaku. Ms. Meikai University.
- 川原繁人 (2017) 『「あ」は「い」より大きい!?:音象徴で学ぶ音声学入門』. 東京: ひつじ書房.
- 川原繁人 (2019) プリキュア名と両唇音の音象徴. 日本音声学会予稿集.

⁵ ただし、プリキュアに興味を持っている (いた) 学生は、女子学生が中心であるので、プリキュアの授業のあとは、主に男子学生の興味を引くため、日本語ラップの韻の分析の紹介につなげる。この分析には、両唇音だけでなく他の調音点や調音法も関係してくるので (Kawahara 2007)、議論が発展させやすい。2020年の社会的状況の踏まえ、筆者はこれらの身近な題材を使った音声学入門の授業内容を Youtube で公開している (<https://www.youtube.com/playlist?list=PLdrzcCNXDQp3a9qIryGOIJqXy3OhRXWa>) .